

# 都市再生整備計画 事後評価シート

## 長生村中央地区

平成25年3月

千葉県 長生村

様式2-1 評価結果のまとめ


都道府県名	千葉県		市町村名	長生村		地区名	長生村中央地区			面積	946ha		
交付期間	平成19年度～平成23年度		事後評価実施時期	平成24年度		交付対象事業費	884百万円	国費率	0.403				
1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名 【道路】道路改良事業、【地域生活基盤施設】地名板・公共施設案内板事業、避難場所・避難誘導標識整備事業、防災無線整備事業、防災倉庫整備事業 【地域創造支援事業】排水路整備事業、長生中学校増改築、ニヶ台総合公園遊具整備事業、ニヶ台総合公園施設整備事業										
	当初計画から削除した事業		事業名			削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響				
	新たに追加した事業		事業名			削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響				
	当初計画から削除した事業		事業名			削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響				
	新たに追加した事業		事業名			削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響				
交付期間の変更		当初	平成19年度～平成23年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		-						
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ	
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み	(総合所見)	予定時期		
	指標1	交通事故件数	件	10	H19	0	H23	-	3	△	あり なし	-	
	指標2	道路交通安全性の満足度	%	27	H19	54	H23	-	91	○	あり なし	-	
	指標3	防災行政無線施設の機能向上	種類	5	H19	8	H23	-	8	○	あり なし	-	
	指標4	浸水戸数	箇所	30	H19	0	H23	-	0	○	あり なし	-	
指標5	長生中学校校舎耐力度	点	3,000	H19	10,000	H23	-	-	○	あり なし	-		
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値(比較値)		目標値		数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度※1	達成見込み	(総合所見)	予定時期		
	その他の数値指標1	通学路の歩車道分離率	%	21	H19	/	/	-	33	/	あり	-	
	その他の数値指標2	教育施設の耐震化率	%	76	H19	/	/	-	100	/	あり	-	
その他の数値指標3	ニヶ台総合公園の利用者数	人	39,113	H19	/	/	-	43,917	/	あり	-		
4) 定性的な効果発現状況	通学路に歩道ができたことで、安心して通学させることができるようになった。公園の施設整備により、快適にスポーツができるようになった。/公園の整備で子どもの遊ぶ場が増えた。地名板の設置により、道案内などの説明がしやすくなり、利便性が上がった。												
5) 実施過程の評価	実施内容		実施状況										
	モニタリング	なし	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった										
	住民参加プロセス	なし	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった										
持続的なまちづくり体制の構築	自主防災組織の組織化や住民参加による防災訓練等の実施		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった										
										今後の対応方針等			
										今後も自主防災組織の設置に向け説明会を積極的に開催するとともに、地元と協働して防災訓練の実施を促進する。			

## 様式2-2 地区の概要


### 長生村中央地区(千葉県長生村) 都市再生整備計画の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
	指標	単位	値	年	値	年	値	年
<b>大目標:</b> 安心と安全を確保し潤いのある生活しやすいまちづくりをめざす。 <b>目標1</b> 安全に歩け快適に走れる道路整備の推進 <b>目標2</b> 災害時に備えた防災対策の推進 <b>目標3</b> 安心して利用できる公共施設の整備	交通事故件数(目標1)	単位:件	10	H19	0	H23	3	H23
	道路交通安全性の満足度(目標1)	単位:%	27	H19	54	H23	91	H23
	防災行政無線施設の機能向上(目標2)	単位:種類	5	H19	8	H23	8	H23
	浸水戸数(目標2)	単位:箇所	30	H19	0	H23	0	H23
	長生中学校校舎耐力度(目標3)	単位:点	3,000	H19	10,000	H23	-	H23
	通学路の歩車道分離率(目標1)	単位:%	21	H19	-	-	33	H23
	教育施設の耐震化率(目標3)	単位:%	76	H19	-	-	100	H23
	尼ヶ台総合公園の利用者数(目標3)	単位:人	39,113	H19	-	-	43,917	H22


★提案事業(地域創造支援事業)  
尼ヶ台総合公園遊具整備事業

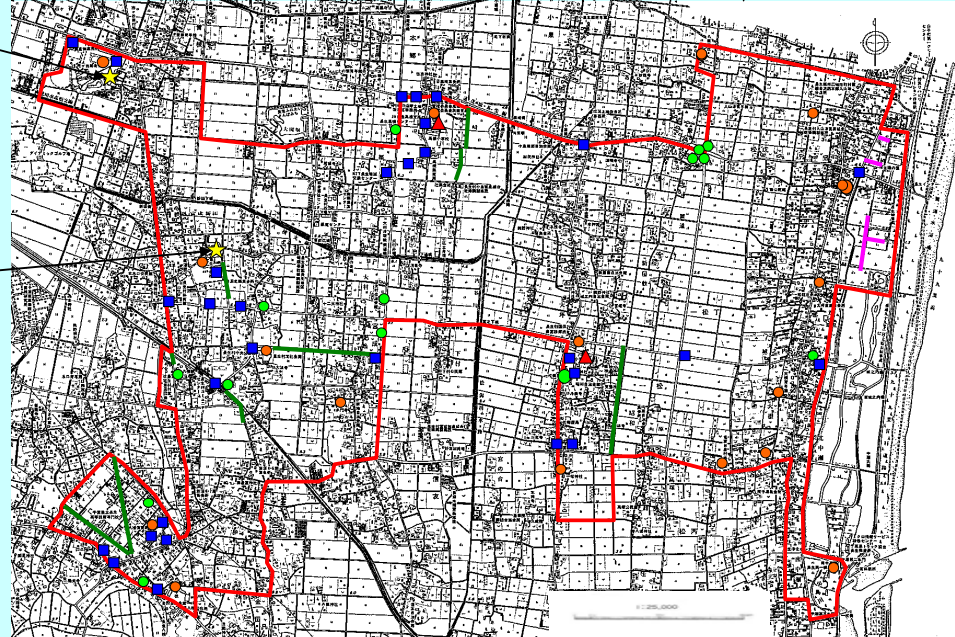


★提案事業(地域創造支援事業)  
長生中学校増改築事業




▲基幹事業(地域生活基盤施設)  
防災倉庫整備事業







●基幹事業(地域生活基盤施設)  
地名板、公共施設案内板等整備事業




■基幹事業(地域生活基盤施設)  
防災行政無線整備事業




□提案事業(地域創造支援事業)  
排水路整備事業



■基幹事業(地域生活基盤施設)  
避難場所・避難誘導標識整備事業



一基幹事業(道路)



まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>●道路整備により、安全な歩行空間の確保が推進されているが、(村道1-3号線)踏切南側T字路部分の横断歩行者の安全が確保されていない箇所があることが課題である。</li> <li>●主要交差点への地名板や公共施設への案内板の設置により、来訪者の利便性が向上したが、過去に設置された公共施設への案内看板は、個々に設置されたためデザインが統一されていないことが課題である。</li> <li>●防災無線施設に、親局子局の双方通信、データ伝送機能、映像機能等が追加され機能的向上が図れたが、映像機能を使用するための設備が未整備であったり、防災無線施設の配置の再検討が必要な箇所があることが課題である。</li> <li>●避難場所における備蓄及び防災倉庫が整備され、災害時における避難者への対応が可能となったが、防災倉庫に国・県が示す3日分の備蓄が完備されていないことが課題である。</li> <li>●避難場所標識9か所、避難誘導標識20か所設置に伴い災害時、避難者への円滑な避難誘導が可能となったが、東日本大震災を受けた津波浸水予測図が発表に伴い、避難場所の修正が生じ、それに応じた避難所標識、避難誘導標識の設置が課題である。</li> <li>●尼ヶ台総合公園の施設の改修により、地域の住民の安全安心なスポーツ交流の場が創出されたが、遊具や施設の維持・管理が計画されていないことが課題である。</li> </ul>
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●歩行者と車の接触事故削減を目指し、未整備の道路改修工事を推進し、安全な歩道空間の確保を図る。</li> <li>●自主防災組織の活動や防災訓練をさらに活性化し、住民主体の防災対策を促進するため、自主防災組織と連携した防災計画の検討を行う。</li> <li>●今後も老朽化していく公共施設や尼ヶ台総合公園の施設の維持管理を計画的に行い、さらなる整備を推進し、利用者の安心安全を確保していくため、公共施設の維持・管理計画の策定を行う。</li> <li>●村内の横断歩道や歩道橋を含めた歩道の整備を推進し、より安全で快適な道路空間の形成を図る。</li> <li>●防災倉庫や防災無線を最大限に活用するための設備をより充実させるとともに、非難所標識、避難誘導標識をの設置箇所の再検討を行っていく。</li> <li>●東日本大震災を受けた津波浸水予測図が発表されているため、津波浸水予想図に対応した防災計画の策定を行う。</li> <li>●既設案内板の老朽化に伴い、本事業で設置した案内板(デザイン)への統一化を図る。</li> <li>●公共施設の維持管理を計画的に行うため、公共施設の維持・管理計画の策定を行う。</li> </ul>

# 都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

## (1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

## (2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

## (3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

## (4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

## (5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

## (6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

## (7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値		●			
D. その他( )		●			

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業		当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
事業	事業箇所名	事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	道路改良事業	621.0	村道1-3号線・2-7号線・2-14号線・1160号線・2157号線他2路線・3058号線・3207号線・3212号線	655.0	村道1-3号線・2-7号線・2-14号線・1160号線・2157号線他2路線・3058号線・3207号線・3212号線	村道3207号線について、用地・賠償費の増加による事業費の増額及び用地交渉が難航したことにより事業期間を延長した。	一部の路線について、事業期間を変更したが、事業内容が不変のため、まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響はなし。	●	
地域生活基盤 施設	地名板・公共施設案内板事業	4.0	地名板・公共施設案内板22枚	4.0	地名板・公共施設案内板22枚	なし	-	●	
	避難場所・避難誘導標識整備事業	9.0	避難場所10箇所、避難誘導標識19箇所	9.0	避難場所9箇所、避難誘導標識21箇所	事業内容を精査した結果、整備箇所を変更した。	-	●	
	防災無線整備事業	54.5	屋外送受信装置、空中線、トランペットスピーカー、外部接続箱、ブレイカー、自動普及装置 17箇所	54.5	屋外送受信装置、空中線、トランペットスピーカー、外部接続箱、ブレイカー、自動普及装置 17箇所	なし	-	●	
	防災倉庫整備事業	5.5	避難所における備蓄及び防災倉庫2箇所新設	5.5	避難所における備蓄及び防災倉庫2箇所新設	なし	-	●	

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業									
事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造 支援事業	排水路整備事業	70.0	一松鷲地区 水路工200m、集水 桝2箇所	70.0	一松鷲地区 水路工200m、集水 桝2箇所	なし	-	●	
	長生中学校増改築事業	80.0	長生村中学校校舎	46.0	長生村中学校校舎	計画当初の解体対象から特別教室棟が除外されたため、事業費が減額した。	特別教室棟が除外されたが、生徒が生活する校舎は解体対象であったため、まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響はなし。	●	
	尼ヶ台総合公園遊具整備事業	6.0	滑り台1基、ブランコ 1基、スプリング遊具 3基	6.0	滑り台1基、ブランコ 1基、スプリング遊具 3基	なし	-	●	
	尼ヶ台総合公園施設整備事業	-	-	34.0	合併浄化槽1基、野 球場内野整備、テニ スコート改修	利用者増加への対応及び施設の 老朽化に伴う利用者の安全確保 が急務となったことから、施設整備 事業を追加実施した。	公園の施設の整備を実施したが、事業の目的は安心して利用できる 公共施設の整備であり、本計画の目標と同様のため、まちづくりの目 標への影響はない。ただし、公園の利用に関する指標がないため、 その他指標3「尼ヶ台総合公園の利用者数」を追加する。	●	
事業活用調査									
まちづくり活動 推進事業									

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考)関連事業								
事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考
			当初計画	最終変更 計画	当初計画	最終変更計画		
長生中学校増改築事業		長生中学校	1,020	1,020	H22~H23	H22~H23	完了	文部科学省

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	単位	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無	
			基準年度	基準年度	基準年度	目標年度	モニタリング	事後評価	モニタリング	事後評価	あり	なし			
指標1	交通事故件数	件	—	—	10	H19	0	H23	モニタリング	—	—	モニタリング	—		
									事後評価	確定 ●	3	事後評価	△		●
									見込み						
指標2	道路交通安全性の満足度	%	—	—	27	H19	54	H23	モニタリング	—	—	モニタリング	—		
									事後評価	確定 ●	91	事後評価	○		
									見込み						
指標3	防災行政無線施設の機能向上	種類	—	—	5	H19	8	H23	モニタリング	—	—	モニタリング	—		
									事後評価	確定 ●	8	事後評価	○		
									見込み						
指標4	浸水戸数	箇所	—	—	30	H19	0	H23	モニタリング	—	—	モニタリング	—		
									事後評価	確定 ●	0	事後評価	○		
									見込み						
指標5	長生中学校校舎耐力	点	—	—	3,000	H19	10,000	H23	モニタリング	—	—	モニタリング	—		
									事後評価	確定 ●	—	事後評価	○		
									見込み						

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	歩行者と車の接触する交通事故は減少しており、事業による一定の効果は認められたが、数目標値である0件を達成できなかった。	不測の事態である交通事故を0件とした目標の達成は困難であったことから、「交通事故の満足度」及びその他指標「通学路の歩車道分離率」により、道路整備事業の効果を検証する。
指標2	道路の改修等が行われ歩行者の安全な歩道空間が確保されたことから、道路交通安全性の満足度が大きく向上し、目標値を達成したと判断した。	
指標3	防災行政無線施設は平成19年よりアナログ式機能からデジタル式機能へ移行し、親局子局間での連絡通話、画像データの送受信、他システムとの連動やLAN対応によるネットワーク接続の3機能を追加したため、目標値を達成した。	
指標4	排水路を整備したことによって、地区内の排水機能が向上し、速やかな雨水は排水が可能となった結果、目標値である0箇所を達成したと判断した。	
指標5	耐震基準にそった中学校校舎に建替えが実施され、耐震性には問題ないため、目標は達成していると判断した。	公立学校施設費国庫負担金等に関する関係法令等で定める耐力度は10000点満点であり、当該地域の外力条件が0.88/1.00であるため、目標値である10000点を満たすことは困難である。当初計画の目標値の設定が現実的なものではなかつと考えられる。

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○: 評価値が目標値を上回った場合

△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×: 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合



添付様式2-② その他の数値指標（当初設定した数値目標以外の指標）による効果発現の計測

指標	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	単位	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値(比較値) (イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)	
			基準 年度		基準 年度							
その他の 数値指標1	通学路の歩車道分離率	%	-	-	21	H19	モニタリング	-	-	33	「安全に歩け快適に走れる整備道路整備の推進」を目標とした道路改良事業の効果として、通学路の歩行空間の安全性の確保が進化したことを検証できる「通学路の歩車道分離率」は指標としてふさわしいと考える。	指標1を補完する。
							事後評価	確定 ●	見込み			
その他の 数値指標2	教育施設の耐震化率	%	-	-	76	H19	モニタリング	-	-	100	「安心して利用できる公共施設の整備」を目標とした長生中学校校舎増改築事業の効果として「教育施設の耐震化率」は指標としてふさわしいと考える。	指標5を補完する。
							事後評価	確定 ●	見込み			
その他の 数値指標3	尼ヶ台総合公園の利用者数	人	-	-	39,113	H19	モニタリング	-	-	43,917	「安心して利用できる公共施設の整備」を目標とした尼ヶ台総合公園の施設や遊具の整備の効果として「尼ヶ台総合公園の利用者数」は指標としてふさわしいと考えられる。	安心して利用できる公共施設の整備現状を評価する。
							事後評価	確定 ●	見込み			

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前（概ね10年程度前）の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

通学路に歩道ができたことで、安心して通学させることができるようになった。  
公園の施設整備により、快適にスポーツができるようになった。/公園の整備で子どもの遊ぶ場が増えた。  
地名板の設置により、道案内などの説明がしやすくなり、利便性が上がった。

## (2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

### 添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況		実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
	実施状況			
なし	予定どおり実施した		なし	なし
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

### 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況		実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
	実施状況			
なし	予定どおり実施した		なし	なし
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

### 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名:組織の概要	
自主防災組織の組織化や住民参加による 防災訓練等の実施	予定どおり実施した	● 自主防災組織の設立マニュアルを作成し、自治会長会議等で配布した。 自主防災組織について、説明会を実施した。	自主防災組織4箇所設立 防災訓練1回実施(村全体)	今後も自主防災組織の設置に向け説明会を積極的に開催するとともに、地元と協働して防災訓練の実施を促進する。
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内の横断的な組織 「都市再生整備計画事後評価庁内検討会」	企画財政課、総務課、学校教育課、建設課	平成24年11月30日	企画財政課

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標2		指標3		指標4		指標5	
指標名		道路交通安全性の満足度		防災行政無線施設の機能向上		浸水戸数		長生中学校校舎耐力度	
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	道路改良事業	◎	学校周辺等の歩行空間の確保や踏切周辺の歩行者が安全に歩行できるよう行った改修整備により、住民の道路交通安全性の満足度の大幅な向上につながり、安全な道路環境の創出に寄与したと考えられる。	-	老朽化し、不都合が生じていた防災行政無線を多機能な施設に更新整備することで、機能数が増加し、災害時の様々な情報を迅速かつ的確に伝達が可能になり、災害時に備えた防災対策の推進に寄与したと考えられる。	-	地区内の海岸地域一帯における排水路整備により、地域内の排水機能が向上し、浸水戸数が目標値である0箇所を達成し、地域内の雨水排水能力の向上に寄与したと考えられる。	-	当該地域の公立学校施設費国庫負担金等に関する関係法令等で定める耐力度は固定値である外力条件が0.88/1.00であるため、満点(10,000点)の達成は困難である。しかし、耐震基準にそった中学校校舎に建替えが実施され、耐震性には問題なく、生徒が安心して授業を受けられる環境の創出に寄与した。ただし、指標としては適当とはいえないため、その他指標2にて補完する。
	地名板・公共施設案内板事業	◎		-		-			
	避難場所・避難誘導標識整備事業	○		○		-			
	防災無線整備事業	-		◎		-			
	防災倉庫整備事業	-		○		-			
提案事業	排水路整備事業	-		○		◎		-	
	長生中学校校舎増改築事業	-		-		-			
	尼ヶ台総合公園遊具整備事業	-		-		-			
	尼ヶ台総合公園施設整備事業	-		-		-			
関連事業	長生中学校校舎増改築事業	-		-		-		◎	

※指標改善への貢献度

- ◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- ：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- ：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	歩道の整備等を継続し、安全に歩ける歩行空間の創出を促進する。	防災行政無線施設の新設等を実施し、さらなる防災性の向上に努める。	雨水排水能力が低い地域での改善や地域での防災訓練等の開催により防災性の向上を図る。	耐震基準を満たしていない公共施設の建替え・改修等を実施し、安全・安心な公共空間の創出を図る。
-------	--------------------------------	----------------------------------	---	--

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		その他の数値指標1		その他の数値指標2		その他の数値指標3			
指標名		通学路の歩車道分離率		教育施設の耐震化率		尼ヶ台総合公園の利用者数			
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	道路改良事業	◎	通学路を含む道路改修工事により、歩車道分離が進み、通学路の歩車道分離率が向上し、安全に歩け快適に走れる道路整備の推進に寄与したと考えられる。	-	長生中学校校舎の建替えにより、公共施設の耐震化率(村内の耐震化した教育施設の割合)が増加し、安心して利用できる公共施設の整備や災害時に備えた防災対策の推進に寄与したと考えられる。	-	尼ヶ台総合公園のテニスコートや野球場などの施設整備や冒険子供広場の遊具の整備事業により、公園利用者が増加し、安心して利用できる公共施設の整備に寄与したと考えられる。	-	
	地名板・公共施設案内板事業	◎		-		-			
	避難場所・避難誘導標識整備事業	-		-		-			
	防災無線整備事業	-		-		-			
	防災倉庫整備事業	-		-		-			
提案事業	排水路整備事業	-	-	-	-	-	-	-	-
	長生中学校校舎増改築事業	-	◎	-	-	-	-	-	-
	尼ヶ台総合公園遊具整備事業	-	-	-	◎	-	-	-	-
	尼ヶ台総合公園施設整備事業	-	-	-	◎	-	-	-	-
関連事業	長生中学校校舎増改築事業	-	-	◎	-	-	-	-	-

※指標改善への貢献度

- ◎ : 事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- : 事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △ : 事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	歩道の整備等を継続し、安全に歩ける歩行空間の創出を促進する。	耐震基準を満たしていない公共施設の建替え・改修等を実施し、安全・安心な公共空間の創出を図る。	公園等の維持管理を徹底し、安心して利用できる公園の整備を図る。
-------	--------------------------------	--	---------------------------------

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1													
指標名		交通事故件数													
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類		
基幹事業	道路改良事業	△	学校周辺や踏切周辺の歩行空間の整備や地名・公共施設案内板の設置をしたが、交通事故件数は3件となり、目標値には達しなかった。ただし、交通事故件数は大幅に減少しており、安全に歩け快適に走れる道路整備の推進に対し、一定の効果は得られた。	II											
	地名板・公共施設案内板事業	△													
	避難場所・避難誘導標識整備事業	△													
	防災無線整備事業	-													
	防災倉庫整備事業	-													
提案事業	排水路整備事業	-													
	長生中学校校舎増改築事業	-													
	尼ヶ台総合公園遊具整備事業	-													
	尼ヶ台総合公園施設整備事業	-													
関連事業	長生中学校校舎増改築事業	-													

※目標未達成への影響度

- ××：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
- ×：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
- △：数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
- ：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類

- 分類Ⅰ：内的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅱ：外的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅲ：外的な要因で、予見が不可能な要因。
- 分類Ⅳ：内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	安全に歩け、快適に走れる道路空整備を図り、交通事故のさらなる減少を促進する。			
------------------	--	--	--	--

#### (4) 今後のまちづくり方策の作成

##### 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
都市再生整備計画事後評価庁内検討会	企画財政課、総務課、学校教育課、建設課	平成24年11月30日	企画財政課

##### 添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
学校等の公共施設周辺の道路で、歩行者が歩行空間を確保できないために交通事故が予想される路線の改良が必要である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●(村道1-3号線)鯉名踏切に歩道を設置したことにより、踏切横断者の安全性が向上した。また、踏切南側のT字路改良により、車両交通の安全性及び利便性が向上した。</li> <li>●(村道2-7号線)車道を拡幅したことにより、車両交通がスムーズになり、利便性が向上した。</li> <li>●(村道2-14号線)車道を拡幅したことにより、車両交通がスムーズになり、利便性が向上した。また、歩道を設置したことにより歩行者の安全性が向上した。</li> <li>●(村道1160号線・2157号線・3058号線)車道を拡幅したことにより、車両交通がスムーズになり、利便性が向上した。また、歩行帯を設置したことにより歩行者の安全性が向上した。</li> <li>●(村道3207号線・3212号線)車道を拡幅したことにより、緊急車両等の交通がスムーズになり、利便性が向上した。</li> <li>●主要交差点への地名板や公共施設への案内板の設置により、来訪者の利便性が向上した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●(村道1-3号線)踏切南側T字路部分の横断歩行者の安全が確保されていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●過去に設置された公共施設への案内看板は、個々に設置されたためデザインが統一されていない。</li> <li>●防災無線施設の配置の再検討が必要な箇所がある。</li> <li>●防災倉庫に国・県が示す3日分の備蓄が完備されていない。</li> <li>●東日本大震災を受けた津波浸水予測図が発表に伴い、避難場所修正が生じ、それに応じた避難所標識、避難誘導標識の設置が課題である。</li> <li>●尼ヶ台総合公園の遊具や施設の維持・管理が計画されていない。</li> </ul>
災害発生時の円滑な情報伝達のために老朽化した防災行政無線施設を多機能型の施設に更新整備すること並びに台風等の災害時に浸水被害が発生する地域の整備が必要である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●排水不良の要因であった土水路をコンクリート構造物の水路に変更したことにより、円滑な排水の確保され、浸水被害が減少した。</li> <li>●防災無線施設に、親局子局の双方通信、データ伝送機能、映像機能等が追加され、災害時におけるの効果が見込まれる。</li> <li>●避難場所における備蓄及び防災倉庫が整備され、災害時における避難者への対応が可能となった。</li> <li>●避難場所標識9か所、避難誘導標識20か所設置に伴い災害時、避難者への円滑な避難誘導が可能となった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●行政防災無線の映像機能を使用するための設備が整備されていない。</li> </ul>	
昭和37年に建築した長生中学校校舎が経年経過により老朽化し、耐震性にも問題があるために建て直す必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●長生中学校校舎の解体・建て直しを行ったことで耐震性の問題は解消された。</li> <li>●尼ヶ台総合公園の老朽化により撤去された遊具の代替えとして、遊具を設けたことにより、安全安心が確保され子供広場としての機能が充実した。</li> <li>●尼ヶ台総合公園の野球場、テニスコートの改修により、施設環境の充実が図られ、地域の住民の安全安心なスポーツ交流の場が創出された。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●尼ヶ台総合公園利用者が、さらに安全で安心して利用できる環境づくり。</li> </ul>	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	歩車道空間の整備の促進	歩行者と車の接触事故削減を目指し、未整備の道路改修工事を推進し、安全な歩道空間の確保を図る。	さらなる道路改修工事の検討(歩行者空間の確保)
	防災対策の強化	自主防災組織の活動や防災訓練をさらに活性化していくため、住民との連携を行い、防災対策における支援を実施する。	自主防災組織と連携した防災計画の検討
	公共施設の維持管理	今後も老朽化していく公共施設や尼ヶ台総合公園の施設の維持管理を計画的に行い、さらなる整備を推進し、利用者の安心安全を確保していく。	公共施設の維持・管理計画の策定

B欄 改善策  ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	歩車道空間の改善	村内の横断歩道や歩道橋を含めた歩道の整備を推進し、より安全で快適な道路空間の形成を図る。	さらなる道路改修工事の検討(歩道の確保、横断歩道の整備)
	防災関連施設の整備	防災倉庫や防災無線を最大限に活用するための設備をより充実させるとともに、避難所標識、避難誘導標識の設置箇所の再検討を行っていく。	津波浸水予想図に対応した防災計画の検討 屋外子局新設・移設等の配置検討
	公共施設の利便性の向上	既設案内板の老朽化に伴い、本事業で設置した案内板(デザイン)への統一化を図るとともに、公共施設の維持管理を計画的に行い、さらなる整備の促進を図る。	公共施設の維持・管理計画の策定

フォローアップ又は次期計画等  
において実施する改善策  
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

なし

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。  
 ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無	フォローアップ計画			
			年度	年度	年度	年度					予定時期	計測方法	その他特記事項	
指標1	交通事故件数	件	10	H19	0	H23	確定 ●	3	△	あり	→	-	-	-
							見込み			なし ●				
指標2	道路交通安全性の満足度	%	27	H19	54	H23	確定 ●	91	○	あり	→	-	-	-
							見込み			なし				
指標3	防災行政無線施設の機能向上	種類	5	H19	8	H23	確定 ●	8	○	あり	→	-	-	-
							見込み			なし				
指標4	浸水戸数	箇所	30	H19	0	H23	確定 ●	0	○	あり	→	-	-	-
							見込み			なし				
指標5	長生中学校校舎耐力度	点	3,000	H19	10,000	H23	確定 ●	-	○	あり	→	-	-	-
							見込み			なし				
その他の数値指標1	通学路の歩車道分離率	%	21	H19	/		確定 ●	33	/		→	-	-	-
						見込み	/							
その他の数値指標2	教育施設の耐震化率	%	76	H19	/		確定 ●	100	/		→	-	-	-
						見込み	/							
その他の数値指標3	尼ヶ台総合公園の利用者数	人	39,113	H19	/		確定 ●	43,917	/		→	-	-	-
						見込み	/							



**添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方**

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	アンケートによる満足度や防災機能の機能数など、定量的に評価でき、達成状況を確認する際、明確であった。	・都市再生整備計画時には、数値が比較可能で妥当であるか検討することが必要である。
	うまくいかなかった点	長生中学校校舎の耐力度については、計画時に耐力度の算出の条件を想定していなかったため、成果の達成を数値として評価することが出来なかった。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点		・指標の設定には、目標と指標の関係を整理したうえで設定することが有効であり、事後評価の実施を考慮する必要がある。
	うまくいかなかった点	安心して利用できる公共施設の整備という目標のうち、公園の整備に関する効果を確認できる指標がなく、その他指標として公園の利用者数で補完したが、安全性等の事業効果を測るうえでは分かり難い点があった。	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点		・ホームページや広報を充実させ村民への周知を行っていく必要がある。 ・住民の参加は、まちづくり事業推進の円滑化、事業の質的向上を図るうえで有効であり、意見交換などを行う場を設置する必要がある。
	うまくいかなかった点	・事後評価のホームページ掲載の周知が広く行われず、村民の意見を吸い上げるまでに至らなかった。	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	・「都市再生整備計画事後評価庁内検討会」の設置により、関連する関係各課の参画を得て、多様な角度から事後評価分析・検討をすることができた。	・今後の事業を行う上でも定量的に同じ指標で達成度合いを評価し、履歴を残していくことも有効である。
	うまくいかなかった点		
その他	うまくいった点		
	うまくいかなかった点		

**添付様式6ー参考記述 今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)**

<p>・今後の交付金活用予定 平成26年度に防災関連事業への交付金の活用を計画しており、当地区の経験を都市再生整備計画の作成に活かしていく。</p>
--

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	村のホームページに掲載	平成25年1月8日～1月21日	平成25年1月8日～1月21日	担当課への 電話、FAX、電子メール	企画財政課
広報掲載・回覧・個別配布	広報に村のホームページで原案を公表している旨を掲載	平成25年1月1日発刊	—		
説明会・ワークショップ	—	—	—		
その他	担当課での閲覧	平成25年1月8日～1月21日	平成25年1月8日～1月21日		
住民の意見	なし				

## (6) 評価委員会の審議

### 添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	秋葉正一(日本大学生産工学部教授)	平成25年2月4日	企画財政課	社会資本整備総合交付金評価委員会	社会資本整備総合交付金評価委員会
その他の委員	緑川千里(都市行政) 井桁正昭(建築士)				
審議事項※1		委員会の意見			
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	・方法書に従って、事後評価が適正に実施されたことが確認された。			
	成果の評価	・指標1交通事故件数が未達成となっているが、今後の課題として扱うのか、という意見があった。評価値の結果として目標値に対して未達成のため、その他指標1通学路の歩車道分離率で補完した点と、事故件数は大幅に減少しており、一定の成果は得られたと考えられる点から委員の理解を得た。 ・指標5長生中学校校舎耐力度について、数値目標の達成が出来たのか、出来なかったのか分かりにくいという意見があった。事後評価のなかで、数値目標としている耐力度の満点は達成できないことが判明したが、耐震基準に沿った建替えが行われたため、安心して利用できる公共施設の整備という目標は達成していると想定されるという旨及び、その他指標2教育施設の耐震化率で補完している説明を行い、委員の理解を得た。			
	実施過程の評価	特になし			
	効果発現要因の整理	特になし			
	事後評価原案の公表の妥当性	村のホームページを充実させ、村民に広く知らせる努力が必要ではないか、という意見があった。			
	その他	特になし			
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	事後評価の手続きは妥当であると認められた。			
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	・今回の都市再生整備計画事業の計画時に出来なかった事業がどれだけ存在するのか、今回の事業でどれだけ達成したのかを整理する必要があるのではないかと指摘を受けた。			
	フォローアップ	特になし			
	その他	・防災と地域のコミュニティの関連で、新しい住民の自治会の加入率を上げる施策も今後の方策としても考えるべきであるという意見があった。 ・定量的に数値で評価することは、今後の事業を行う上でも同じ指標で達成度合いを評価し、履歴を残していくことも有効だろうという意見があった。			
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	今後のまちづくり方策は妥当であると認められた。			
その他	特になし				

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。